



物流における環境負荷の低減 ～モーダルシフトの取り組み～

ニチレイロジグループは、長年にわたり輸送手段をトラック輸送から鉄道、船舶に替えて環境負荷を低減するモーダルシフト*に取り組んでいます。その取り組みが評価され、2016年にニチレイロジグループの(株)ロジスティクス・ネットワークが、一般社団法人日本物流団体連合会が主催する「第14回モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」でモーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞しました。

*モーダルシフト (modal shift) : トラックや航空機による輸送を鉄道や船舶による輸送に転換すること。



「モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)」受賞! 評価された主な取り組み

1 フェリー便とJRコンテナ便による 倉庫間移動のモーダルシフト

ニチレイロジグループがモーダルシフトに取り組み始めたのは2003年のこと。1997年に地球温暖化防止京都会議が開催され、CO₂削減への気運が高まる中、社会的課題への対応として開始しました。

まず遠距離間のトラック輸送の一部を2003年に札幌～福岡間、2004年に東京～福岡間においてJRコンテナ便による輸送に切り替えました。2005年からは東京～福岡間でフェリー輸送も開始。これらはすべて往復運行を基本としています。



2 フェリー便による複数荷主の共同輸送を開始

ロジスティクス・ネットワークは、3PL(サードパーティロジスティクス)*事業者として、2011年から複数の冷凍食品メーカーの商品を組み合わせた、積載効率のよいフェリー輸送を開始しています。これにより、コンテナのスペースが空いている状態のまま輸送するロスをなくし、約98%の積載率での運行を実現できるようになりました。

*3PL: 荷主である顧客企業から、調達、在庫管理、配送にいたるまで顧客の全物流業務の改善を提案し、再設計を行った上で、包括的に物流業務を受託・運営する事業。

複数荷主の共同輸送



責任者の声



(株)ロジスティクス・ネットワーク
常務執行役員 管理本部長
経営企画部長
中山 英臣

自由な発想が生んだ継続的なチャレンジが実を結びました

当社には新しいことに挑戦する風土があり、10年以上前からさまざまな改善を重ね、モーダルシフトに取り組んできました。大賞を取ることで社会への貢献を知っていただくことができ、とても光栄に思っています。また船会社のオーシャントランス(株)様をはじめ、ご協力いただいている皆さまに感謝しています。船舶や鉄道の輸送は、天候に左右され制約を受ける面もありますが、都度適切な輸送手段を選択し

臨機応変に対応しています。

今後は、フェリー便での輸送の際にトレーラにくわえて、10t車に置き換えることで機動力を高めたり、温度帯の違う商品を組み合わせるなどして積載率を100%まで上げていきたいと考えています。将来的には幹線輸送量の全体に占めるモーダルシフト実績を2.4%(2015年度・重量ベース)から、10%まで拡大することを目指しています。

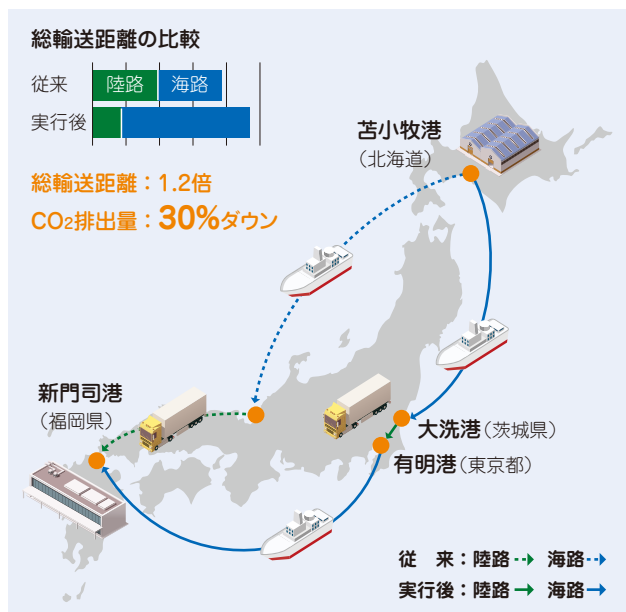
3 倉庫間移動の範囲を越えた輸送ルートに拡大

荷主の倉庫間の在庫転送だけでなく、その前後の物流においても段階的にモーダルシフトを取り入れていきました。

2006年からは、在庫拠点からお客様の納品先、さらに、2015年からは工場から配送拠点への運用を開始しました。くわえて、工場の生産計画と合わせた輸送を行うことで、冷蔵倉庫の在庫を圧縮し、CO₂排出量を削減することができました。

4 コンテナリレー便

北海道から九州までのフェリー輸送の場合、2006年までは日本海側を通って敦賀港、舞鶴港に上陸し、そこから九州までは陸路を利用していましたが、2009年からは太平洋側をフェリーとフェリーでつなぐルートに変更。北海道から東京までは運送会社が主体となって海路と陸路で輸送し、東京からはオーシャントランス(株)社が福岡県新門司港までの輸送を引き継ぎます。海路による輸送距離は1.2倍に増加しましたが、CO₂排出量を30%削減することができました。



パートナーの声



オーシャントランス(株)
取締役 営業企画部長 兼
東京港事務所長
飯田 一雄氏

フェリーの良さを活かし、輸送品質の向上に協力していきます

はじめにロジスティクス・ネットワークさんからご相談いただいたとき、当社には冷蔵輸送の経験がなく、ゼロから一緒にノウハウを蓄積してきました。一番難しかったのは温度管理でしたが、フェリーは電源供給が安定していること、また航海中は直射日光が当たらず、外気の影響を受けにくいなど、温度管理に適した面があります。環境問題、ドライバー不足に対しても、

フェリーを利用していただくことは大きなメリットがあり、社会的課題への対応策になります。トレーラを持ち、ドアtoドアの輸送ができる当社の強みを活かし、さらなるモーダルシフトに貢献していきたいと考えています。



5 需要予測と連動したフェリー便およびJRコンテナ便の手配を開始

適正な在庫管理と在庫補充業務の効率化を目的として、2004年から需要予測システムを利用しています。これは、ロジスティクス・ネットワークが開発した物流ネットワーク上での出荷物量を予測するシステムです。輸送量をあらかじめ予測することで、フェリー便やJRコンテナ便を効率よく手配し、高い積載率を実現することができます。

ドライバー不足もモーダルシフトで解決

現在、日本の輸送業界はドライバーの高齢化や、長時間労働により、深刻なドライバー不足が問題になっています。重要な社会インフラにもかかわらず、このままでは5年後、10年後に、輸送システムを確保するのが難しい事態になりかねません。

モーダルシフトは、環境負荷低減の施策であると同時に、無人での輸送距離を長くすることで、ドライバーの負担を軽減する輸送システムでもあります。ニチレイロジグループでは、今後もさらなるモーダルシフトの拡大を図り、CO₂削減、ならびに運送業界が直面するドライバー不足の課題への対応と、安定した輸送インフラの維持に貢献できるよう、取り組みを強化していきます。